

私たちは、命のつながりに思いを馳せる暮らしを提案し、心豊かな生き方のお手伝いをします。

創業 明治44年

命のつながりを想う



お城の店が目印です。

あどつあま

“あどつあま”とは…

仏様をさす方言。米沢の方では住職様、僧侶をさす方言です。宗教の知識を通してお役にたてれば嬉しいです。



長門屋

発行 有限会社 長門屋
編集：未来の種まき委員会
〒990-0042
山形市七日町1-4-12
TEL 023-622-2204
FAX 023-622-2203
http://oshironomise.com
2017~2018年 迎春 第22号

2017年は こんなことがありました 皆さまからのご厚情に、心より御礼申し上げます

長門屋の6大ニュース

- 一、当店ホームページをリニューアル
見やすく、わかりやすく、お店に行ってみたくて感じていただけるホームページを目指しました。これからも皆さんに、旬の情報を発信していきます。
 - 二、TUYのぐっじよぶ YAMAGATA 出演
六月の放送後、「見たよ」とたくさんお声掛けをいただきました。緊張しましたが、スタッフ一同よい笑顔で「ぐっじよぶ」と言えたかと…。
 - 三、てらこやフェスタへ出店
十月、浄土宗青年部の方からのお声掛けで、出店させていただきました。「匂袋づくり」ワークショップは、親子連れにも楽しんでいただけました。
 - 四、漆山の浄土院様へ、幟幡と吊り燈籠
一対を納品
入口の吊り燈籠は、今後ずっと人の足元を照らしてくれることでしょう。寄贈した檀家さんのお母様の生前のお人柄がそのようだったと、後日ご住職から伺いました。
 - 五、天童で「守り本尊入り腕輪づくり」の出張講座
天童の東住宅産業さんの快適な住宅展示場での出張講座。座学での、宗派ごとに違う本式の珠数のお話しも新鮮だったのでは。
 - 六、やまがた育ちの桜の珠数が誕生
山形育ちの桜の木を使った、当店オリジナルの珠数が誕生しました。米織のオリジナル珠数袋も好評です。
- 番外、気仙沼の高台にお家を新築された
I様宅へ仏壇納品
三〇年前、気仙沼の漁師であるI様は、親に連れられて仙台で一泊し、山形の当店まで来て仏壇を求めて下さいました。震災で家が流され、再建されるのを機に、再び当店へ。納品時には、目にした復興途中の光景を胸に刻みました。

新年の抱負を込めた

『私の一文字』

育 (そだつ)

笹林陽子

自分が育つ、夢が育つ。人が育ち、会社が育つ。

心 (こころ)

国島潤一

全ては心が表しているということを、一年を通して学ぶことが多かったため、新年は仕事も家庭も心がけを意識して過ごしていきたい。

五 (ご)

後藤久嗣

前年の一文字「三」に頂きは見えた。更に「五」という頂きに挑戦します。どれだけでもがけるか。新境地見たい。





望 (のぞむ)

山口 雪江

敷地内の庭、蔵、駐車場などが、「少しずつ」ではありますが整ってきました。次の展開を考えながら進む一年にしたい。希望の望みです。



新 (しん)

大津 淑子

新築の家が完成しました。気持ちも新たに家族共に力を合せ、助けあって暮らして行きたいと思えます。



惑 (わく)

齋藤 金五郎

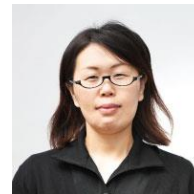
還暦を過ぎ、未だ不惑にもなれず、このまま煩惱と付き合っていくのも、人間としての生き方なのかなあ。



健 (けん)

北條 有希

健康あつてこそその日常です。日頃から気を付け元気に過ごしたいです。



更 (さら)

小瀧 美樹

仏事コーディネーター資格の更新の年なので更なる学びの一年にしたいです。

歳末の天台宗一斉托鉢は、 長門屋敷地奥の慈光明院からスタート



▲毎月重ねてきた写仏や写経の講座の活動の様子を報告中です。



▲研修後、街頭へ出発前に、記念写真をパチリ！



▲いざ出発。二手に分かれて、街中を巡りました。

天台宗では、「慈愛の心で助け合い」をスローガンに、毎年十二月一日を「全国一斉托鉢の日」と定め、全国津々浦々に置いて、天台宗の僧侶や檀信徒たちが中心になって托鉢を実施し、街頭や各戸を訪問して募金活動をしています。

今年は、山形市中心市街地を巡るといふことで、長門屋敷地奥にある寺「慈光明院」が発着拠点となりました。参加されるのは男性住職ばかりかと思いきや、協力団体の立正佼成会の方々は女性がたくさん参加され「一隅を照らしましょう」と書かれた黄色いたすきをかけて、にぎやかに出発していきました。

その様子は、翌朝の山新にも掲載されましたが、たくさんの浄財が集まり寄付することが出来ました。当山住職（兼長門屋の女将）も托鉢業前の研修会で講師を務めるなど、大活躍しました。

「国宝とは何者ぞ、
宝とは道心なり。
道心有るの人を名付けて
国宝と為す。」

とは伝教大師最澄の言葉で、私自身とても感銘を受けた言葉です。我々も今いる場所で一隅を照らすような行動をしていきましょう！

(後藤)